

参加
無料

博物館 - 公民館連携の可能性を探る

かたりば

Part 2 いま知りたい、博物館のコト

公民館と博物館という同じ「社会教育法」の元にありながら接点が少なかった双方からの自由な言葉が行き交うオンラインシンポジウムです。

Part 1での公民館の実践の話題提供、それを受けての意見交換を経て、公民館と博物館、双方のニーズやこれからの展望を共有することができました。今回は博物館で行われている公民館との連携事業や、デジタル化の実践の話題提供です。様々な専門を持つコメンテーターの方々ともやりとりし、新たな視点・現場におけるデジタルアーカイブの可能性についてともに語りましょう。

Program

趣旨・背景説明 (10分)

二宮 聡

九州大学総合研究博物館
事業コーディネーター

三島 美佐子

九州大学総合研究博物館 教授

話題提供 (各10分)

河口 綾香

福岡市博物館 学芸員

宮原 由橘菜

福岡市博物館
デジタルアーカイブ推進員

朝烏 和美

田川市石炭・歴史博物館 学芸員

質疑応答・意見交換 (50分)

ふりかえり (10分)



2025.1.27 Mon.

オンライン開催 / 19:00-21:00

対象 / 博物館・公民館の従事者はじめ、
本テーマに興味ある方なら どなたでも

定員 / **50名** [先着順]

ご参加は無料です。事前申込の上、ご参加ください。

申込
方法

QRコードを読み取り、
webフォームからお申し込みください。



令和6年度「地域共創協学デジタル化事業」オンラインシンポジウム / 日本ミュージアム・マネージメント学会九州支部 令和6年度研究会

主催「地域共創協学デジタル化事業実行委員会」「中核館」九州大学総合研究博物館

共催「日本ミュージアム・マネージメント学会（JMMA）」九州支部

協力「福岡市箱崎公民館」

かたりば 話題要旨

河口 綾香 福岡市博物館 学芸員

『『博物館』における公民館連携事業の試みと課題』

民俗調査研究の過程では、往々にして地域の文化継承にかかる課題に直面します。「博物館」は、こうした地域の課題に対し何ができるのでしょうか。この問いに応える一つの事例として公民館との連携事業等を紹介し、見えてきた気づきや課題にも触れます。

宮原 由橘菜 福岡市博物館 デジタルアーカイブ推進員

『博物館施設におけるジャパンサーチの活用と展望』

国内文化財の統合デジタルアーカイブであるジャパンサーチを使用した事例を中心に、文化財のデジタルデータを博物館等施設がどう整備し、活用しているかを紹介します。また、地域博物館の地域住民、教育施設との関わりにも触れます。

朝鳥 和美 田川市石炭・歴史博物館 学芸員

『田川市石炭・歴史博物館DXの成果と課題』

田川市石炭・歴史博物館では令和5年度に博物館DXとして、デジタルツインやVRシアターを導入しました。博物館でデジタルを活用するにあたり、企画段階から導入後まで様々な課題があることもわかりました。今回は活用にかかる博物館DXの成果と課題を報告します。

意見交換会コメンテーター

五月女 賢司 大阪国際大学 准教授（博物館学）

箕浦 永子 九州大学 人間環境学研究院 助教（都市史）

岡 幸江 九州大学 人間環境学研究院 教授

池辺 伸一郎（公財）阿蘇火山博物館 学術顧問 / JMMA九州支部長

令和6年度文化庁 Innovate MUSEUM 事業 「地域共創協学デジタル化事業」とは

本事業では、大学移転跡地の大規模開発に伴い変容しつつある「箱崎」という「まち」をケーススタディーとして、地域の既存の有志団体が収集・保管してきた資料やまちの記録をアーカイブすることを目指します。変わりゆく「まち」の記憶を掘り起こしまた残していくことのみならず、そのアーカイブを活用し、市民の皆さんが地域について更なる発見・発信をしていく一助となることを目指します。

詳細はwebサイトでご確認いただけます >>



九州大学総合研究博物館とは

2000年創立。九州大学の学術資料の収集・保存・継承を担い、それらを用いた教育・研究を実施。箱崎サテライトに常設展示室、伊都キャンパスにフジギャラリーを持ち、九州大学の学術標本資料や研究成果を展示・公開しています。

webサイト開設予告

「HAKOZAKI BASE」

「HAKOZAKI BASE」は、福岡市東区箱崎とその周辺エリアの地域文化資源を収集した、いわば“オンラインミュージアム”です。様々な情報をつなげ、閲覧者の多様な学びや創造を支援することを目指します。

主な構成は、地域文化資源のデジタルアーカイブ「HAKOZAKI ARCHIVE」と、地域の口伝やデジタルアーカイブを利用した地域情報を掲載する「HAKOZAKI MAGAZINE」の2つです。また、ネット上に散在する地域の文化資源情報を集めて閲覧できるようなポータルサイトも組み込む予定です。

